

# 劇場へ行こう

## 躍動する古典芸能の世界

開館 20 周年の節目に各界の舞台人が登場！今後の劇場文化を語ります。



上田宜照

桂福丸

川村旭芳

旭堂小南陵

撮影：ヒダキトモコ



総合司会：桂吉坊

### 第一部 トーク「劇場文化を語る」

- 豊竹若太夫（文楽 太夫）
- 山本章弘（能楽師）
- 辰馬朱満子（白鷹禄水苑 総合プロデューサー）
- 河内厚郎（兵庫県立芸術文化センター 特別参与）

### 第二部 古典芸能の競演

- 上田 宜照、上田 拓司（能 仕舞） 演目『敦盛』
- 桂 福丸（落語） 演目『金明竹』
- 川村 旭芳（筑前琵琶） 演目『祇園精舎』『逆落し』
- 旭堂 小南陵（講談） 演目『太閤記 矢矧橋』

2025 2/1 (土) 2:00PM 開演 (1:30PM 開場)

3,500 円 (全席指定 / 税込)

兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22 阪急西宮北口駅南改札口スグ/JR 西宮駅より徒歩 15 分 (阪急バス 7 分)

※未就学児のご入場はご遠慮ください。  
※やむを得ない事情により、出演者・演目等が変更となる場合があります。  
あらかじめご了承ください。

芸術文化センター会員  
先行予約受付開始

一般発売

●芸術文化センターチケットオフィス

☎0798-68-0255 (10:00AM~5:00PM 月曜休※祝日の場合は翌日)

●インターネット予約 <https://www.gcenter-hyogo.jp>

●芸術文化センター 2 階 総合カウンター ※窓口での販売 (残席がある場合) は 10/14 (月・祝) より

10/12 (土)

10/13 (日)

## 劇場へ行こう ～躍動する古典芸能の世界～

コロナ禍の4年間で劇場を取り巻く環境は一変しました。ライブ公演のオンライン化、テクノロジーを駆使したXR、VRの技術の発達により、劇場文化は今後どのように変化していくのでしょうか。芸術文化センター開館20周年の節目に、これまで劇場が文化や社会にはたしてきた役割を振り返り、今後の劇場文化について、各界の舞台人を招いて語り合います。

第一部のトークには、オリジナルの文楽作品を意欲的に発表している豊竹若太夫、大阪で山本能楽堂を主宰する山本章弘、白鷹祿水苑のプロデューサー辰馬朱満子、総合司会は落語家の桂吉坊、それに河内厚郎が加わります。第二部は、若手演者による落語、講談、筑前琵琶、能の仕舞など、開館20周年にふさわしい、華やかな、阪神間出身の演者による古典芸能ラインナップでお届けします。

### 『第一部』

#### ◆豊竹 若太夫 (とよたけ わかたゆう)

人形浄瑠璃 文楽座太夫

昭和22年大阪府生まれ。昭和42年に三代竹本春子太夫に入門、祖父豊竹若太夫(人間国宝)の幼名三代豊竹英太夫を名乗る。昭和44年、四代竹本越路太夫に入門。平成29年第47回JXTG音楽賞「邦楽部門」(旧モービル賞)ほか多数受賞。文楽本公演以外に、「ゴスペル・イン・文楽」の創作、他ジャンルとのコラボレーション公演も手がける。平成29年六代豊竹呂太夫襲名、令和4年太夫の最高峰<切場語り>に昇格、令和6年4月十一代豊竹若太夫を襲名。



#### ◆辰馬 朱満子 (たつうま すみこ)

白鷹株式会社取締役副社長 白鷹祿水苑総合プロデューサー

「白鷹」の蔵元四代、辰馬寛男の長女で、西宮生まれ。聖心女子大学卒。灘酒文化の発信地「白鷹祿水苑」の構想から企画、その文化施設としての運営に携わる。また国指定重要文化財23点を含む辰馬家歴代当主の蒐集品を収蔵する(公財)辰馬考古資料館の企画・運営にもあたり、同館の理事長もつとめる。平成25年7月～29年6月西宮市教育委員。(公財)西宮市国際交流協会理事長。



#### ◆山本 章弘 (やまもと あきひろ) 観世流能楽師

重要無形文化財保持者総合指定保持者。(公財)能楽協会理事、(公財)山本能楽堂代表理事。NPOベっふかんこうかい理事長。山本能楽堂を中心に「現代に生きる魅力的な芸能」として、能楽の普及と継承につとめる。能、文楽、落語、講談等 上方伝統芸能全般の魅力発信にも尽力。東欧を中心に毎年継続して海外公演を実施し国際交流につとめる。大阪文化賞、外務大臣表彰など受賞。



#### ◆河内 厚郎 (かわうち あつろう)

兵庫県立芸術文化センター特別参与

西宮市出身。甲陽学院・一橋大学卒。演劇評論家。元『関西文学』編集長。NHKの番組審議員やラジオセンター21世紀プロジェクト委員、文化庁芸術審査員等を歴任。現在、兵庫県立芸術文化センター特別参与、阪急文化財団理事、およびの市民大学学長。読売賞、咲くやこの花賞。著書に『淀川ものがたり』、対談集『関西弁探検』、論文に「水と芸能とヒルコ」など。時事通信の書評を担当。



### 『第二部』

#### ◆上田 宜照 (うえだ よしてる) 観世流能楽師

昭和63年上田拓司の長男として生まれる。父・上田拓司、伯父・上田貴弘に師事。平成2年2歳で初舞台。平成7年初シテ、平成20年照の会にて「石橋(白:上田拓司)」、平成22年上田観正会90周年記念能にて「乱」を披く。ベルギー国王フィリップ陛下御観覧公演やルーマニア「シビウ演劇祭」など多数の海外公演にも参加。甲南大学文学部人間科学科卒。能楽シテ方観世流準職分。



#### ◆上田 拓司 (うえだ たくじ) 観世流能楽師

昭和34年神戸に生まれ、昭和36年初舞台。「上田観正会」「照の会」を主宰。舞台上の演能にとどまらず、「社会における能の意義」を思い、幼稚園から老人大学まで、様々な形での能の教室、講演等の活動を行っている。神戸ブルーメール賞(団体で受賞)、文化庁芸術祭新人賞、同優秀賞受賞、兵庫県功労者(文化功労)表彰、こぶし志縁賞受賞。重要無形文化財総合指定、夙川能舞台瓦照苑代表。



#### ◆桂 福丸 (かつら ふくまる) 落語家

昭和53年神戸市生まれ。京都大学卒。卒業後は英語落語を学びアメリカでも公演を行う。平成19年桂福団治に入門。「福丸」の名付け親は作家の藤本義一氏である。3月9日に高石アプラホールにて初舞台を踏む。天満天神繁昌亭ほか、各地の落語会に出演中。令和3年より小学生限定の「子どもだけ寄席」を開催し、全国で好評を博している。令和5年大阪文化祭奨励賞、令和5年繁昌亭大賞・奨励賞等。



#### ◆川村 旭芳 (かわむら きょくほう) 筑前琵琶奏者

神戸市出身在住。八歳の頃、母の勧めで筑前琵琶日本旭会総師範、二代柴田旭堂師に入門。現在、筑前琵琶日本旭会師範。門人会「筑前琵琶 川村旭芳会」主宰。和楽器ユニット「おとぎ」代表。古典曲を継承しながら新作の創作にも取り組み、阪神・淡路大震災の追悼曲はじめ、母・川村素子の作詞による作品も発表。NHK-FM「邦楽のひととき」BSテレ東「おんがく交差点」他、テレビ・ラジオ出演。



#### ◆五代目 旭堂 小南陵 (きょくどう こなんりょう) 講談師

平成13年旭堂小南陵(四代目・旭堂南陵)に入門、OL・俳優を経て講談師に。平成28年国立文楽劇場にて五代目旭堂小南陵襲名。第70回文化庁芸術祭新人賞、令和2年大阪文化祭奨励賞等受賞多数。令和元年大阪市此花区に講談中心の演芸場「此花千鳥亭」をオープンし、定期会や、講談と読み聞かせの会等を主催。講談&講演セミナー、研修講師、学校講師などでも活躍中。



#### ◆桂 吉坊 (かつら きちぼう) 落語家

平成11年1月10日、高校在学中に桂吉朝に入門、同年初舞台。桂米朝のもとで内弟子修業。自身の会である「吉坊ノ会」を東京・大阪で開催するほか落語会を各地で行う。雅楽や日本舞踊・能などの古典文化芸能のナビゲーター・対談なども数多く勤め、平成23年咲くやこの花賞のほか、令和5年大阪文化祭奨励賞・古典の日文化基金賞・繁昌亭大賞など受賞。著書に『桂吉坊がきく藝』。



### 総合司会

#### ◆桂 吉坊 (かつら きちぼう) 落語家

平成11年1月10日、高校在学中に桂吉朝に入門、同年初舞台。桂米朝のもとで内弟子修業。自身の会である「吉坊ノ会」を東京・大阪で開催するほか落語会を各地で行う。雅楽や日本舞踊・能などの古典文化芸能のナビゲーター・対談なども数多く勤め、平成23年咲くやこの花賞のほか、令和5年大阪文化祭奨励賞・古典の日文化基金賞・繁昌亭大賞など受賞。著書に『桂吉坊がきく藝』。



<https://www.gcenter-hyogo.jp>

兵庫県立芸術文化センター  
Hyogo Performing Arts Center

先行予約会員へのご登録はこちら



## 便利なアクセス!!

大阪梅田からも神戸三宮からも  
ホールまで15分  
(阪急電車特急乗車の場合)

◎ 阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ(連絡デッキで直結)

◎ JR 西宮駅より徒歩15分(阪急バス7分)

※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

### アクセス

